

鳥羽市地域公共交通会議会議録

会議の名称	平成 28 年度第 1 回鳥羽市地域公共交通会議定期航路幹事会
開催日時	平成 28 年 6 月 28 日（火）13：30～15：00
開催場所	鳥羽マリンターミナル会議室
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ 2. 役員の選任、自己紹介【資料 1・2】 3. 平成 27 年度の取り組み報告【資料 3】 4. 平成 27 年度決算について【資料 4】 5. 平成 28 年度事業計画について <ol style="list-style-type: none"> (1)年間スケジュールについて【資料 5】 (2)生活交通確保維持改善計画について【資料 6】 6. 平成 28 年度収支予算（案）について【資料 7】 7. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・旅客荷物区間別実績について【資料 8】
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> 【資料 1】 席次表 【資料 2】 委員名簿（定期航路幹事会） 【資料 3】 平成 27 年度の取り組みについて 【資料 4】 平成 27 年度鳥羽市地域公共交通会議決算 【資料 5】 地域公共交通会議スケジュール（案） 【資料 6】 生活交通確保維持改善計画 【資料 7】 平成 28 年度鳥羽市地域公共交通会議予算（案） 【資料 8】 平成 27 年度旅客荷物区間別実績集計表
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし
出席委員	木下会長、黒田委員、渥美委員、世古委員、西川委員、小寺委員、小久保委員、東川委員代理木田さん、矢田委員
オブザーバー	なし
欠席委員	三浦委員、濱口委員、清水委員
事務局	定期船課 斎藤、野呂、大矢
<p>1. 開会</p> <p>○斎藤事務局長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会 ・配布資料の確認 <p>○木下会長挨拶</p> <p>みなさん、こんにちは。本日は定期航路幹事会にご出席いただき厚く御礼申し上げます。とりわけ交通事業にご理解いただき市長に成り代わり厚く御礼申し上げます。この 4 月に新しく双胴船しおさいを就航しました。これで双胴船が 3 隻と単胴船 2 隻で運航をしております。しかし、離島人口の減少とともに利用客が年々減っておりまして、皆様方の叡智をお伺いしながら、どうしたら定期船に乗っていただけか議論を深めたいと思いますのでよろしく願いいたします。</p> <p>2. 役員の選任、自己紹介</p> <p>資料 1・2 により役員の選任を行い、会計は中部運輸局鳥羽海事事務所黒田委員、監事は答志町内会の西川委員が選任された。その後、出席者全員による自己紹介を行った。</p>	

【地域公共交通と協議会のあり方について説明】

○中部運輸局三重運輸支局鳥羽海事事務所黒田委員から中部運輸局作成のパンフレットにより説明

中部運輸局としてこのパンフレットを発行させていただいています。地域公共交通の将来的な展望をより良いものにしていこうと3年ごとの計画が出されます。各地で5年後10年後における皆様の生活の足を維持していくためにはどうしたらいいかと言うことで、毎年公共交通会議を開催してもらっています。協議会のメンバーの方には地域の代表の方がいらっしゃいますし、また、関係機関の方、行政機関の方が集まって活発な意見を出していただいて、学識経験者よりアドバイスをいただきながら計画を作って維持をしていきたいと思いますというご案内でございます。今、全国の地域公共交通が大ピンチです。人口の減少にともなって住民の足である移動の手段が維持できなくなっている状態があります。そのためここで定期船のビジョンをたてていただき、皆さんで活発に議論をしていただいてより良いものを協議会として出して行きましょう。

みんなの応援プロジェクトの紹介をさせていただくため貴重なお時間をいただきありがとうございます。

3. 平成27年度の取り組み報告

4. 平成27年度決算について

○野呂事務局員

資料3、資料4について説明。

○西川監事

監査報告

○木下会長

事務局に説明させましたがご質問とかご意見はありましたらよろしくお願いします。
(意見・質問なし)

5. 平成28年度事業について

(1) 年間スケジュールについて

○斎藤事務局長

資料5について説明。

(2) 生活交通確保維持改善計画について

○斎藤事務局長

本年2月19日に中部運輸局で開催されました第三者評価委員会の評価を考慮して計画を策定しております。また、本計画の対象とする期間は平成28年10月から平成29年9月として、平成29年度の補助申請になります。市の会計年度とは異なることをご理解ください。

資料6について説明。

○木下会長

事務局に説明させましたがご意見・ご質問はありますか。

○黒田委員

燃料使用量は若干増えているが単価が減少傾向にあると見込んでおられますが、燃料効率の良い新船建造による減少もありますか。もう一つは、船舶修繕費で前年度より増加しているが説明にあったようにエアコン等の修繕によるものでしょうか。新船も就航され船も新しくなっていると思いますがご説明願います。あと店費の増加については職員の退所金引当ということですが、経営改善のためのコスト削減の取組はしていますか。

○齋藤事務局長

燃料潤滑油費について、新船建造時には燃焼効率のよい船を建造していくということで、2隻の高速船と規模・形状の同じ船体で出力を落とした主機関にすることで消費量を減らしていく計画としています。全ての船が同じ条件で運航していれば運航経費も横ばいか減少するかと思います。しかし、17ノットで単胴船より早く走れるという長距離運航に適しているしおさいの特性を生かして、長距離であり時間短縮にもなる神島航路に配船をしております。そのため、1航海当たりのエンジンを回しきっている時間が長く他の航路に比べ燃料消費量はそんなに減少しませんので、今回の損益計算書の減額は燃料単価が下がったことが主な原因となります。

船舶修繕費では、代替建造で全体の船齢は下がりますが、きらめき以前の単胴船は耐用年数を経過していることから主機関は毎年交換している部品が増えますし、エアコン等も耐用年数は5年となっており必ず故障があり交換等が必要で1基あたりが50万円はかかります。エンジンの部品も5年おき10年おきに交換が必要な物があり古い船を1隻新しくしても大幅に修繕費が下がるわけではありません。そんなことから、日頃の点検をしっかりとって大きな故障に繋がらないよう心がけていることをご理解願います。

コスト削減ではありませんが、船内広告の広告料とか中之郷棧橋で飲料の自動販売機を設置して収入を増やすことはしています。ただし、船内広告については、最近の経済状況や利用状況を見て撤退される広告主さんもいて厳しい状況です。その他ガイドブックやパンフレット類を作成して、観光協会さんや観光課の協力をいただき新ツアーの開発による新たな旅客の発掘を手がけているところです。

○渥美委員

定期検査等があると修繕費用は増加すると思いますが、検査時期の平準化とか考えられていますか。

○矢田委員

定期検査は法律で5年おきに実施しています。旅客船ですので5年の間に1年おきに中間検査を行って中でも特別一種中間検査では定期検査に準じたエンジンの開放整備があり異常がないか検査をしています。定期検査と特別一種中間検査の時には修繕料が高くなっていますことから、その年の検査の種類によって修繕料の増減があります。

○東川委員代理木田さん

人口減少は昔から言われているが船を大型化しているのはなぜですか。

○齋藤事務局長

単胴船では定員数が200人を超えていますが、平成14年度に旅客船におけるバリアフリー法が定められてから、入口や通路、トイレ等バリアフリーに適應した形や広さ、段差解消、傾斜角度の基準が設けられています。しかし、答志航路や神島航路では観光シーズンになると離島住民と観光客で200人規模の乗客実績があります。そのこともあり市の定期航路に定められているサービス基準でも150人の旅客を運べる航路が定められていて、乗り残しがないようにするため現在の船舶の大きさにしています。

○東川委員代理木田さん

テレビで瀬戸内の小型船を見たがその船もバリアフリー法は関係ありますか。

○齋藤事務局長

関係あります。実は小型船の方が確実に運航経費を抑えられることから、小型船建造を検討するため平成24年度に瀬戸内海に勉強に行ってきました。視察先にあった小型船は高速船で定員数は80人くらいで一般の客席は約30人、段差のないバリアフリー席で約5人、あとは出入口と後部デッキの立ち席となっていて壁がないため鳥羽の1月～3月などは北西風の強い日は濡れるのを覚悟で乗らざるを得ないこととなります。また、壁を付けてしまうと19トンまでの小型船の規格が保てなくなり、船体検査にかかる費用は現状と変わらなくなってしまいます。風雨にも濡れず台風のような荒天以外は欠航しない船を造っておかないと、小型船では、たびたび欠航をしてしまうこととなります。

○東川委員代理木田さん

瀬戸内ではその辺をどうやって解消しているのでしょうか。

○斎藤事務局長

市営定期船は年間70万人以上乗っていて全国でも鳥羽だけですが、瀬戸内の視察で見えてきた状態は、通常10人～20人くらいが乗船していて波穏やかです。新船建造でも何回か行っていますが高波が立っている日を見たことがありません。そんなことから小型船でも瀬戸内は適応できていくと思います。

(以上意見なし)

○木下会長

それでは、この計画に承認いただける方は、挙手をお願いします。

(挙手全員 8/8)

ありがとうございます。ご承認いただきました。

6、平成28年度収支予算(案)について

○野呂事務局長

資料7について説明

○木下会長

事務局に説明させましたがご意見・ご質問はありますか。

○渥美委員

新年度は計画の策定にかかる経費はよろしいのでしょうか。

○野呂事務局長

3カ年計画で補助交付を受けて事業を終了しておりまして、今年度については今後検討していくということです。

○斎藤事務局長

計画策定については、昨年度調査業務プラス計画策定という内容で補助申請をいたしました。補助金で内示されたのが340万円でした。他に市の予算が付きませんでしたので補助金の範囲でできる調査業務だけを実施させていただきました。そこで受託業者と協議のうえ調査業務の結果を反映した計画書のある程度作成していただくことを約束しております。それを土台にして業者さんと相談のうえ見直しをかけ予算を使わず手作業で作成していこうと考えております。

○黒田委員

調査業務340万円の中でパンフレット等も作成したのですか。

○斎藤事務局長

パンフレット作成は調査業務とは関係ありません。純粋な調査業務です。

(意見・質問なし)

それでは、予算案に承認いただける方は、挙手をお願いします。

(挙手全員 8/8)

どうもありがとうございました。

7、その他

・平成 27 年度旅客荷物区間別実績集計表

○斎藤事務局長

資料 8 について説明。

旅客については、人数も金額も微増です。荷物については少し減っています。

一般乗船料の人数と金額の減少差については、乗船料の高い神島航路のみ増加したため金額の方が減少率を抑えられています。全体的には人口減少によって一般乗船券と定期乗船券の販売枚数が減っています。ただし、消費税増税の時に通用期間を 6 ヶ月に延ばした回数券を、大多数の離島住民が利用するようになり利用率が伸びています。また、全体の旅客増の要因としては、団体利用券や周遊券を見るとわかるように観光客利用が増えていることから、離島住民が回数券利用に移行した分減少しているはずの一般乗船券を観光客の利用が下支えをしていると推定できます。

一つには、伊勢志摩サミット開催決定後、観光客の利用が増えてきたことと、作成したパンフレット類の効果が現れてきたものと思われます。今後、サミット効果により外国人の利用が増えてくると見込まれるため、外国語版パンフレットの充実をしていく必要があると考えています。

○木下会長

事務局の説明も含め定期航路全般についてなにかご意見・ご質問はございませんか。

○小久保委員

旅客人数に小数点以下 5 とある数値はなぜですか。

○斎藤事務局長

乗船券 1 枚に対する補助金上の計算方法で大人一人は文字通り 1 ですが、小人一人については 0.5 としてカウントすることになっています。

○世古委員

観光との効果を考える中で毎月のデータはとっていますか。月々のデータを蓄えて前年比較等を行うことで何らかの傾向を把握することができ今後の観光客対策になると思います。可能であれば統計データの中に入れてもらえればと要望しておきます。

○斎藤事務局長

今回の資料の旅客券から算出している人数データは、券種ごとの資料数が多く推定値を各月締めで集計するのは困難であると思われます。ただし航海日誌による旅客人員データは実際の人数をカウントして各月で集計できますので、ある程度簡略化した形で出すのであれば可能かと思えます。

○野呂事務局員

バスの方でもデータを作成し分析をしていますが、毎月の住民基本台帳人口の推移と比較して分析を行えればと考えます。

○西川委員

地域公共交通会議スケジュール案にある第 1 回運営審議会のダイヤ改正について、意見の集約はどのようにするのか、市が実施するパブリックコメントについてもほとんど意見が集まっていないのが現状だと思います。おそらくそれぞれの離島で賛成反対のいろんな声があふれていると思います。

たとえば私が聞いている中に、ダイヤ改正のサイクルが短くなっていることがあるが、何故ダイヤ改正をしたかということが市民の方に十分伝わっていない状況があるのではないかと思います。ですので、そのあたりを一緒に考えて行けたらと感じています。

○斎藤事務局長

一つはどうやって意見を集約するかですが、詳しく要望書をいただく場合があります。また、直接電

話や窓口、インターネットに意見や要望を寄せていただくこともあります。改正した点に対してかえって反対する要望が出たりします。定期船課ではいただいた問合せ事項を記録して年度途中に見直すことと、いただいた要望書の原因や内容を検討して会議の議題としていくということで意見を集約しています。ダイヤ改正の意図など伝える方法としては、広報とばやインターネット、とばメールなどいろいろな方法を上手に使っていくことが大事だと思います。

○西川委員

3隻の双胴船に設置されているモニターで放映するのはどうか。

○齋藤事務局長

船内のモニターについていろいろな意見をいただいています。毎月定期的に放映できる情報データがあると良いのですが、用意した情報を流していると「いつも同じ物でもう必要ないので止めて欲しい」と言われたりして今後検討する必要があります。

○西川委員

3隻のうちしおさいは情報が流れているが、2隻は使われていないので考えた方がいい。

○齋藤事務局長

きらめき・かがやきの導入時にいろいろな情報提供のための素材作りまで考えられていなかったためですが、しおさいについても何ヶ月かすると「同じ物ばかりで他の情報を」と意見が出てくると思っています。しかし、皆さんが考えるようなテレビ放送のようにリアルタイムに情報を提供するための映像素材を造るノウハウや予算がないのが苦しいところです。たとえば観光協会さんや観光課で持っている観光ビデオを一定期間放映したりダイヤ改正時に行政放送で放映した番組を改正時には流すなど勉強する必要があると思います。

○西川委員

かがやきに乗船すると三人掛けの椅子の真ん中は常に荷物とか人が座ってない空席が目立ちます。後ろの立ち席に座れない方や高校生が床に座りこんでいることもあります。観光客の方にも良い印象を持っていただきたいのと市の品格にも関わるかなと思いますので、常に船内放送とか、巡視の時に声かけをお願いして少しでも席に無駄のないようにしてもらいたい。

○矢田委員

就航当初は、椅子席 100 に対して朝は 120 人ほど乗船していて、荷物は足下に置くよう船内放送をしたり、巡視時に説明したりしていましたが、現在は 80 人ほどとなっているので全員座れる状態であると思います。

○齋藤事務局長

特に、後ろの立ち席に人がいる状態になっている時には、船員から注意を呼びかける様にします。

○渥美委員

次期代替船建造については、どのようなイメージになりますか。

○齋藤事務局長

交通網形成計画には具体的に記述されませんが、定期船課としてはどの航路にも運航ができて船体規模は小型化していきたいと考えています。しかし、19トンの小型船では運航できない航路や日が増えてしまうので、しおさいクラスですと 75 トンですが 60 トンや 50 トンで建造し雨や風の日でも船内に 100 名程度乗れる様な船を検討していきたい。まだ明らかにこうするとは書けない状態です。

○黒田委員

3カ年計画のなかでは、それは具体的になってないですか。

○斎藤事務局長

具体的な計画で書いてないです。庁内でも建造計画は具体的な内容や財源は決まっています。
(その他特に意見なし)

7. 閉会

○斎藤事務局長

本会議では、冒頭に鳥羽海事事務所の黒田委員より説明のあったように、全国の地域交通会議では、なかなか委員から地域交通に対しての意見が出にくく維持確保が困難な状況にある中、今回も皆さんから様々な意見をいただき本会議にとって大きな意義があったと思います。ただし、会議で出された意見を今後の計画作りや事業の運営にどう反映させていくかは、事務局をはじめ皆さんの知恵が更に必要になりますことから、引き続きご理解とご協力をいただきたくよろしくお願い申し上げます。

本日はお忙しい中参加いただき誠にありがとうございます。これにて第1回鳥羽市地域公共交通会議を終了させていただきます。